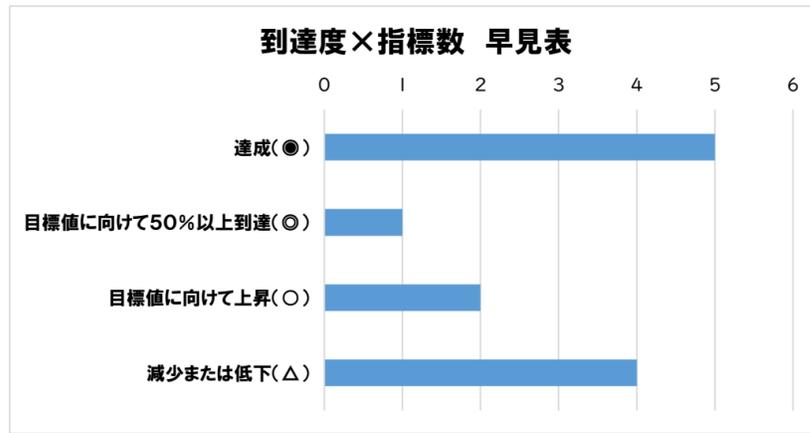


第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証

基本目標 6 豊かな心を育むまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | / | 指標数 |
| 5 | / | 12 |
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | / | 指標数 |
| 6 | / | 12 |
| 目標値に向けて上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 8 | / | 12 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|------------------------------------|------------|------------|------------|---------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 86 市民1人あたりの学習センター年間利用回数 | 4.11回 | 4.6回 | 3.44回 | -142.6% | △ |
| 87 団体企画提案の地域学習交流事業・市共催事業数 | 90件 | 133件 | 99件 | 20.9% | ○ |
| 88 市民1人あたりの年間図書貸出冊数 | 4.60冊 | 5.87冊 | 6.36冊 | 138.6% | ● |
| 89 図書館や保育所などのおはなし会の延べ参加者数 | 1,933人 | 2,580人 | 3,387人 | 224.7% | ● |
| 90 日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合 | 36.1% | 37.5% | 34.8% | -92.9% | △ |
| 91 市民1人あたりの公共スポーツ施設年間利用回数 | 5.79回 | 6.85回 | 5.90回 | 10.4% | ○ |
| 92 総合型地域スポーツクラブの設置数 | 0団体 | 2団体 | 3団体 | 150.0% | ● |
| 93 文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合 | 42.4% | 56.4% | 60.2% | 127.1% | ● |
| 94 YAMATO ART100来場者数 | 105,484人 | 115,000人 | 100,908人 | -48.1% | △ |
| 95 芸術文化ホール年間利用者数 | 0人 | 230,000人 | 255,465人 | 111.1% | ● |
| 96 大和市の歴史や文化は、しっかりと継承されていると思う市民の割合 | 41.5% | 42.9% | 42.3% | 57.1% | ◎ |
| 97 歴史文化施設の利用者数 | 48,339人 | 51,300人 | 34,331人 | -473.1% | △ |

資料1

～総括～

・12の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは5、目標値に向けて上昇したものは8となり、多くの指標が目標値に向けて上昇しました。

・⁸⁸市民1人あたりの年間図書貸出冊数⁸⁹図書館や保育所などのおはなし会の延べ参加者数⁹⁵芸術文化ホール年間利用者数が目標を達成していることは、大和市立図書館、やまと芸術文化ホールを備え、平成28年度に開館した文化創造拠点シリウスの盛況ぶりが、ありのままに表れている良好な結果と捉えています。また、これらをアウトプットとして、⁹³文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合も当初の値から大きく上昇し、目標を上回っています。

・数値が減少(低下)しているものとして、⁹⁰日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合は、スポーツに関わる様々なイベントの開催や施設の改修等の環境整備に努めてきた中で、当初の値から低下しており、課題と捉えています。また、⁹⁷歴史文化施設の利用者数は、近年減少傾向にあり、引き続き、施設の個性や魅力を伝えていくことが重要です。

・⁸⁶市民1人あたりの学習センター年間利用回数⁹⁴YAMATO ART100来場者数は、会議室等の利用人数をもとに算出している指標であり、目標値を下回っているものの、シリウスやポラリスでは、従来の会議室に代えて誰もが自由に使える市民交流スペースを整備したことに伴い、実態としては増加につながっています。⁹⁴YAMATO ART100来場者数は、最終年度においては目標を下回った一方で、過去には目標を達成した年度もあり、天候等の影響でばらつきが生じていますが、今後も多くの市民が文化芸術に触れられる機会を提供していく必要があります。

・「豊かな心を育むまち」の実現に寄与する取り組みのうち、特に読書や学び、文化芸術に関する分野は、市を代表するシリウスの完成に伴い、一定の成果を上げることができました。健康都市やまと総合計画においては、基本目標を「豊かな心と感動が広がるまち」としており、市民の豊かな心の形成や感動の広がりにつながる取り組みを一層推進していく考えです。

成果を計る主な指標の達成状況の検証（課題となるものを抜粋）

①⁹⁰日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合

（達成状況に関する市の考え方）

・各種スポーツ教室や13ヶ国2,500人以上の方が参加したYAMATO WORLD SPORTS FESTIVAL 2018の開催、スポーツ施設の改修等、様々な取り組みを進めてきましたが、数値はほぼ横ばいで推移し、目標値を達成できませんでした。近年では、様々なスポーツ活動やスポーツイベントなどへの参加を対象に健康ポイントを付与するなど、健康づくりの側面からスポーツに取り組んでもらうアプローチも進めているところであり、東京オリンピックの開催等によるスポーツの需要も高まっていることから、平成31年4月に策定した「第2期大和市スポーツ推進計画」に基づき、新たにスポーツによって地域の絆や健康へ「つながる」視点を持ちながら、今後も引き続き、スポーツへの意識を高められるようなイベントの開催等、施策を展開していきます。

②⁹⁷歴史文化施設の利用者数

（達成状況に関する市の考え方）

・各施設とも企画内容や天候によって利用者数に変動がある中で、近年減少傾向にあります。一方で、施設の利用者数には直接表れないものの、大和市の歴史文化の継承に寄与する取り組みとして、当該施設の一部の資料を文化創造拠点シリウスに移設するなど、より多くの方の目に触れるような工夫などを行っているところです。今後も引き続き、施設の個性や魅力を伝える取り組みに努めます。

（総合計画審議会のコメント）

・基本目標6を構成する12の成果を計る主な指標のうち、目標値を達成したものが5、目標値に向けて上昇したものは8と、概ね良好な達成状況を示しています。

・この背景として、文化創造拠点シリウスの完成等に伴い、豊かな感性を育む環境づくりが進み、特に読書や学び、文化芸術における市民の活動も活発になってきているものと評価できます。今後は、施設利用が盛況であるが故に生じる課題などへの対応も検討してください。

・⁹⁰日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合については、競技としてだけでなく、日頃から仲間と気軽に楽しむものでも立派なスポーツであるといった意識の醸成を図りながら、スポーツをみる、支えるという視点も含めて、裾野を広げる取り組みを進めてください。また、「YAMATO WORLD SPORTS FESTIVAL」は、多くの国や地域の方の参加のもとで成功を収めたことを契機に、継続的な開催も視野に入れ、国際交流とスポーツ、両分野の発展につながる大和市ならではの取り組みとなるよう努めてください。

・⁹⁷歴史文化施設の利用者数は、健康都市大学の会場としての利用や健康ポイントの付与、インバウンドを意識した外国人向けのPRや飲食店なども絡めた企画など、様々な分野の取り組みとの連携により、改善が期待できると考えます。利用者数の減少傾向が表れている今だからこそ、これまでの取り組みをもう一度見直し、積極的かつ幅広い世代にわかりやすい周知などを検討することも重要です。

・文化創造拠点が整い、市民の活動などの活発化により達成した指標の上昇結果に満足することなく、引き続き、豊かな心の醸成に寄与する取り組みを着実に進めていってください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証（1/2）

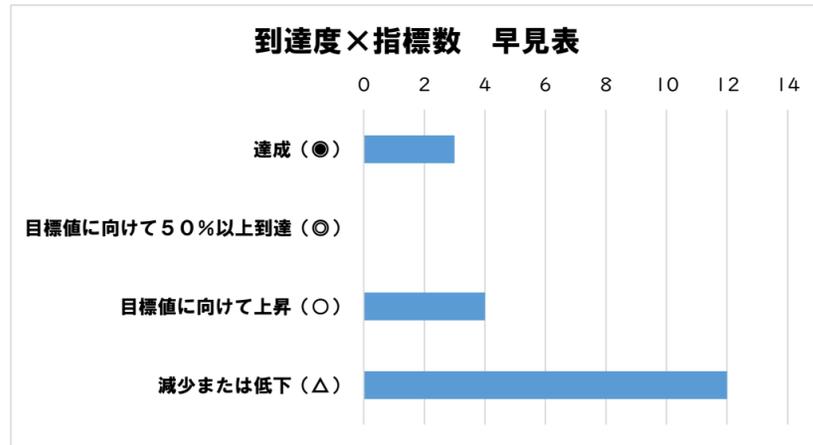
基本目標 7 市民の活力があふれるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 3 | ／ | 19 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | ／ | 指標数 |
| 3 | ／ | 19 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | ／ | 指標数 |
| 7 | ／ | 19 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|-----------------------------|------------|------------|------------|----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 98 地域に差別意識はないと思う市民の割合 | 65.8% | 75.0% | 66.7% | 9.8% | ○ |
| 99 男女が平等であると感じる市民の割合 | 22.4% | 35.0% | 21.9% | -4.0% | △ |
| 100 審議会、委員会などにおける女性委員の割合 | 23.8% | 50.0% | 29.7% | 22.5% | ○ |
| 101 国際交流が行われていると思う市民の割合 | 19.5% | 30.0% | 31.3% | 112.4% | ● |
| 102 外国人を支援するボランティア登録者数 | 245人 | 300人 | 341人 | 174.5% | ● |
| 103 大和市は、買い物しやすいと思う市民の割合 | 70.1% | 75.0% | 71.0% | 18.4% | ○ |
| 104 市内事業者が商店会等に参加している割合 | 76.3% | 77.0% | 64.4% | -1700.0% | △ |
| 105 法人設立数 | 309件 | 320件 | 267件 | -381.8% | △ |
| 106 市内事業所従業者数 | 76,316人 | 80,000人 | 76,799人 | 13.1% | ○ |
| 107 勤労者サービスセンターの加入者数 | 3,912人 | 4,150人 | 3,235人 | -284.5% | △ |
| 108 直売所などで販売する農家数 | 146軒 | 146軒 | 146軒 | 100.0% | ● |
| 109 朝霧市、夕やけ市、おさんぽマートの年間開催回数 | 202回 | 200回 | 153回 | -49回 | △ |
| 110 観光イベント・施設の総来場者数 | 1,497,380人 | 1,540,000人 | 1,371,693人 | -294.9% | △ |
| 111 フィルムコミッションで対応した撮影件数 | 60件 | 72件 | 46件 | -116.7% | △ |
| 112 地域活動に参加している市民等の割合 | 25.9% | 33.0% | 24.2% | -23.9% | △ |
| 113 自治会への加入世帯割合 | 70.7% | 73.7% | 64.8% | -196.3% | △ |
| 114 コミュニティセンターの利用者数 | 345,114人 | 366,000人 | 314,832人 | -145.0% | △ |
| 115 NPO法人数 | 67団体 | 97団体 | 66団体 | -3.3% | △ |
| 116 市民活動センター利用登録団体数 | 220団体 | 264団体 | 180団体 | -90.9% | △ |

～総括～

・19の成果を計る主な指標のうち、目標値に達したものは3、当初の値から上昇したものは7となりましたが、多くの指標が目標値に対する到達度に課題を残しました。

・⁹⁹男女が平等であると感じる市民の割合は、当初の値と比較してほぼ横ばいという結果が表れており、引き続き意識啓発などに取り組んでいく必要があると捉えています。¹⁰¹国際交流が行われていると思う市民の割合は、今回の市民意識調査から「多文化共生」のキーワードを加え「あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う」という設問で測定しており、過去と同一の比較とはならないものの、数値は上昇しました。また、これにあわせ、¹⁰²外国人を支援するボランティア登録者数も増加しており、(公財)大和市国際化協会と連携した外国人市民に対する継続的な支援や、多文化共生の推進に取り組んできた成果が表れているものと考えられます。

・¹⁰⁴市内事業者が商店会等に参加している割合は、商店の減少などにより解散してしまう商店会組織も出てきている背景の中で目標を下回っており、¹⁰⁵法人設立数は、最終年度の数値は当初の値から減少していますが、目標を達成した年度もあり、引き続き、起業への支援に努めていく必要があります。また、¹⁰⁷勤労者サービスセンターの加入者数は市内事業所数の減少などの理由から減っている傾向にあるものと捉えています。

・¹⁰⁹朝霧市、夕やけ市、おさんぽマートの年間開催回数は、平成29年度から週2回程度の開催であったおさんぽマートを週1回へ、¹¹¹フィルムコミッションで対応した撮影件数は、平成28年度から撮影の誘致にあたってシティセールスに結びつく作品に限定するなど、それぞれ方針を変更したことを理由として目標を下回っています。加えて、¹¹⁶市民活動センター利用登録団体数は、平成30年度のセンター移転により、従前の登録を一度リセットし、再登録を行ったことから、実績値が減少しています。

・¹¹⁰観光イベント・施設の総来場者数については、天候の影響を大きく受け、年度によって人数にばらつきが生じており、最終年度は低い実績値となりましたが、目標を達成している年度もあり、健康都市やまと総合計画ではより適切な指標管理を行うため、指標をイベントと施設、それぞれの来場者数で区分しています。¹¹⁴コミュニティセンターの利用者数は平成28年度以降、大規模改修工事で約半年間閉館していた会館があるなどの理由から減少しています。

・¹¹²地域活動に参加している市民等の割合、¹¹³自治会への加入世帯割合、¹¹⁵NPO法人数が目標を達成しなかった背景の一部には、高齢化という問題もあると捉えています。地域のつながりや市民活動はまちに活力を与える大切な要素であることから、行政が取り組むことのできる役割を見極めながら、今後の支援や環境づくりに努めていく必要があります。

・少子高齢化や人口減少などによって、社会経済全体の規模が縮小することが懸念される中であって、まちのにぎわいや市域全体を活性化していくことは重要なテーマであると受け止めています。健康都市やまと総合計画では、年齢・性別・国境などの違いを超えて相互に認めあう社会を形成するとともに、企業活動振興条例などのもと、地域経済の振興やまちのにぎわいの創出を図りながら、地域活動を活性化していくことを通して、引き続き、市民の活力があふれるまちづくりに取り組んでいきます。

(総合計画審議会のコメント)

・基本目標7を構成する19の成果を計る主な指標のうち、目標値を達成したものが3、目標値に向けて上昇したものは7と、達成状況を見渡すと、やむを得ない事情で目標値に近づけなかった指標もある一方で、様々な課題も残っている印象です。

・¹⁰⁴市内事業者が商店会等に参加している割合と¹¹³自治会への加入世帯割合の低下については、社会状況や人々の価値観が変化してきた中で、「加入するメリット」がわからなくなっていることが背景として考えられます。商店会組織が活力あふれる社会に向けて果たす役割について、商工会議所なども協力し、検討していくべき時期に来ているかもしれません。また、商店会等への加入割合においては、商店数の減少との関連も検証することが必要です。商店数の減少に対しては、商売したい人と場を結びつけるマッチングに行政が関与していくことなども有効と考えます。

・自治会の加入世帯割合の低下は、多くの自治体で抱える課題である一方、日頃からの助け合いや地域活動の活発化等の観点から、改善を図らなければならぬと考えます。加入世帯割合の向上に向けて、自治会は、地域としての災害への備えや、子どもの見守りなど市民生活を支えている大切な存在であることの理解を広めるとともに、未加入世帯の状況などを分析し、自治会連絡協議会と協力しながら、より効果的な対策を検討してください。

・¹⁰⁵法人設立数に関しては、毎年度、一定程度新規に設立される市内の法人が、同じ年度に減じた法人数よりも多いことから、市内経済の活性化の観点から総合的には良い傾向にあると言えます。起業支援にあたっては、大和市に多くの国と地域の方が住んでいる特徴も踏まえた外国人の起業や、高齢化する社会への対応策としてNPO法人の設立支援に着目していくことも検討していただく。

・基本目標7の分野は、社会経済状況の変化など、日本全体の大きな課題の影響を受けている面もあり、変化のその先にあるものをどのように先取りしていくのか、7つの基本目標の中でも最も難しい問題に直面していると言っても過言ではないと考えます。健康都市やまと総合計画においても、引き続き基本目標とした「市民の活力があふれるまち」の実現に向けて、地域の住民や産業に関わる人などをはじめ、行政が多様な主体と積極的に関わりながら、地域活動や市内経済の振興、市域全体の活性化に努めてください。

第8次大和市総合計画（後期基本計画）成果を計る主な指標の検証（2/2）

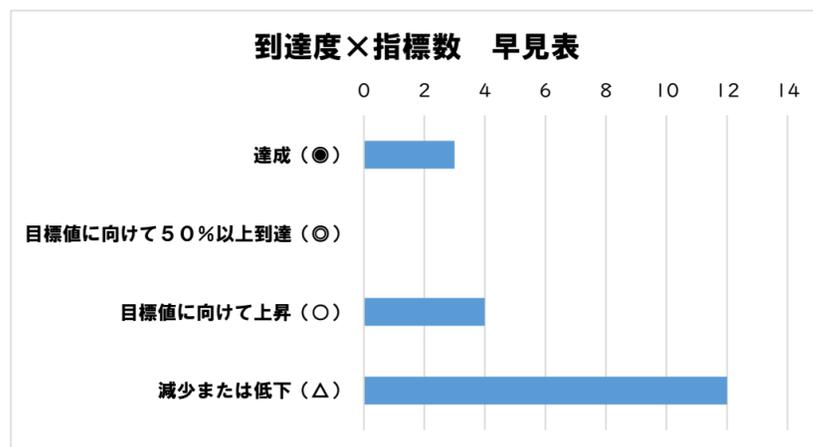
基本目標 7 市民の活力があふれるまち

▼成果を計る主な指標・最終目標値H30年度の達成状況

| | | |
|------------|---|-----|
| 目標値に達した指標数 | / | 指標数 |
| 3 | / | 19 |

| | | |
|---------------------|---|-----|
| 目標値に向けて50%以上到達した指標数 | / | 指標数 |
| 3 | / | 19 |

| | | |
|----------------|---|-----|
| 目標値に向けて上昇した指標数 | / | 指標数 |
| 7 | / | 19 |



| 指標の項目 | 当初値 H24 | 目標値 H30 | 実績値 H30 | 到達度 | |
|-----------------------------|------------|------------|------------|----------|----|
| | | | | 率 | 到達 |
| 98 地域に差別意識はないと思う市民の割合 | 65.8% | 75.0% | 66.7% | 9.8% | ○ |
| 99 男女が平等であると感じる市民の割合 | 22.4% | 35.0% | 21.9% | -4.0% | △ |
| 100 審議会、委員会などにおける女性委員の割合 | 23.8% | 50.0% | 29.7% | 22.5% | ○ |
| 101 国際交流が行われていると思う市民の割合 | 19.5% | 30.0% | 31.3% | 112.4% | ● |
| 102 外国人を支援するボランティア登録者数 | 245人 | 300人 | 341人 | 174.5% | ● |
| 103 大和市は、買い物がしやすいと思う市民の割合 | 70.1% | 75.0% | 71.0% | 18.4% | ○ |
| 104 市内商業者が商店会等に参加している割合 | 76.3% | 77.0% | 64.4% | -1700.0% | △ |
| 105 法人設立数 | 309件 | 320件 | 267件 | -381.8% | △ |
| 106 市内事業所従業者数 | 76,316人 | 80,000人 | 76,799人 | 13.1% | ○ |
| 107 勤労者サービスセンターの加入者数 | 3,912人 | 4,150人 | 3,235人 | -284.5% | △ |
| 108 直売所などで販売する農家数 | 146軒 | 146軒 | 146軒 | 100.0% | ● |
| 109 朝霧市、タヤけ市、おさんぽマートの年間開催回数 | 202回 | 200回 | 153回 | -49回 | △ |
| 110 観光イベント・施設の総来場者数 | 1,497,380人 | 1,540,000人 | 1,371,693人 | -294.9% | △ |
| 111 フィルムコミッションで対応した撮影件数 | 60件 | 72件 | 46件 | -116.7% | △ |
| 112 地域活動に参加している市民等の割合 | 25.9% | 33.0% | 24.2% | -23.9% | △ |
| 113 自治会への加入世帯割合 | 70.7% | 73.7% | 64.8% | -196.3% | △ |
| 114 コミュニティセンターの利用者数 | 345,114人 | 366,000人 | 314,832人 | -145.0% | △ |
| 115 NPO法人数 | 67団体 | 97団体 | 66団体 | -3.3% | △ |
| 116 市民活動センター利用登録団体数 | 220団体 | 264団体 | 180団体 | -90.9% | △ |

成果を計る主な指標の達成状況の検証（課題となるものを抜粋）

①¹⁰⁴市内商業者が商店会等に参加している割合

（達成状況に関する市の考え方）

・商店の減少や後継者不足の問題等により、解散してしまう商店会組織も出てきており、市内商業者が商店会等に参加している割合は低下している傾向にあります。しかしながら、商店街はまちのにぎわいを生み、安全・安心・防犯などの地域貢献機能を担っ

②¹⁰⁵法人設立数

（達成状況に関する市の考え方）

・「大和市創業支援事業計画」に則り、融資や相談等、起業家に対する支援を展開しており、メニューの充実にも努めている中、ここ数年は法人設立数が横ばいで推移していますが、後期基本計画期間中には目標を達成した年度もあり、平均すると年間約300件程度の法人が設立されています。また、全体の傾向としては、市内事業所数や¹⁰⁶市内事業所従業者数も平成24年の値と比較して一定の数を維持している現状です。平成30年度からは、市民活動拠点ベテルギウス内に起業家支援スペースを設けるなどの取り組みも進めており、引き続き、起業も含めた市内の経済活動の活性化に努めていきます。

③¹¹²地域活動に参加している市民等の割合

④¹¹³自治会への加入世帯割合

（達成状況に関する市の考え方）

・地域活動に参加している市民等の割合、自治会への加入世帯割合は、相互に深く関わっている指標であり、これまでも自治会連絡協議会の運営や自治会活動の支援をはじめ、コミュニティセンターの施設改修や各種事業の充実を図ってきましたが、目標値を達成できませんでした。背景には、いまだ本市の人口が微増にある状況の中でも、少子高齢化や共働き世代の増加などに伴い、地域活動などへ費やす労力や時間的負担への抵抗感の影響があると考えられます。一方で、災害時における共助の考え方や支え合いによる福祉の視点など、地域で助け合うことの必要性は高まっており、引き続き、地域活動の基盤である自治会活動への支援や自治会が果たす役割について周知啓発を進めるとともに、利用しやすいコミュニティセンターの環境整備を通じて活動拠点の充実を図るなど、地域間交流の広がりや、防犯防災活動等による安心安全な地域づくりにつながるよう、努めていく必要があります。